



令和 7 年 5 月 22 日

午前・~~午後~~ / 時 / 8 分 受領

議長	事務局長	係
		

令和 7 年 5 月 22 日

愛南町議会議長 吉田 茂生 殿

愛南町議会議員 金繁 典子

一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

質 問 の 要 旨	答弁を求める者
1. 米の安定供給について～生産者と消費者双方を守る視点から 町内の直販所で米がほとんど売られていない状況が年明けから続いており、愛南町でも米不足に陥っていると推測されます。依然として米の価格は高く、町民の家計を圧迫しています。 一方、米生産者にとっては、米を生産しても赤字という状況からようやく回復する兆しが見えてきたものの、大手小売や外食チェーンなどが輸入米を飛躍的に増やしており、このままでは米生産者は再び米の生産を諦めざるをえない状況に陥ることが憂慮されます。 そこで、米不足の現状と背景、及び、量的にも价格的にも安定供給を確保するための対策などについてお聞きします。	町長
2. 真珠養殖産業の持続的発展について 愛南町は「未来に繋ごう！真珠のふるさと愛南町」として、全国に先駆けてブルーカーボン認証を取得し海の環	町長

境保護に貢献しています。愛南町が日本一の真珠母貝生産量を有しながら、「ウイルスによる大量へい死や漁業者の高齢化、後継者不足などにより真珠産業の存続は危機的状況」にあることから、真珠母貝養殖の継続、町全体の活性化を図ろうと進めてこられました。また、ウイルスなどによる大量へい死に対しても真珠及び真珠母貝養殖継続支援事業などを立ち上げられて真珠養殖業を支えてきました。一方で、令和6年度からこの真珠養殖継続支援事業がなくなり、また昨今の物価高で資材や燃料費などが値上がりし、高齢化と後継者不足も加速して、愛南町の地場産業としての存続を危惧する声を聞きます。

そこで、へい死や経済状況、後継者不足など真珠養殖業を取り巻く現状と課題、それに対する町の対策についてお聞きします。

3. ごみを減らすための取り組みについて

町長

愛南町では年間 7,253t のごみを排出しており（令和5年度）、ごみ処分費用に年間約 2 億 6 千万円を支出しています。経済的に大きな負担であるだけでなく、焼却やごみの運搬にも多くの二酸化炭素（CO₂）を排出し、地球温暖化の原因となっています。さらに焼却後の灰は環境衛生センターに埋め立てられていることも環境負荷につながります。

そこで、愛南町のごみ削減 3R（1.リデュース 2.リユース 3.リサイクル）の基本方針と施策についてお聞きします。